

大阪・咲洲で木造アリーナ棟

定尺材組み合わせ38メートルスパン飛ばす

西尾レントオール

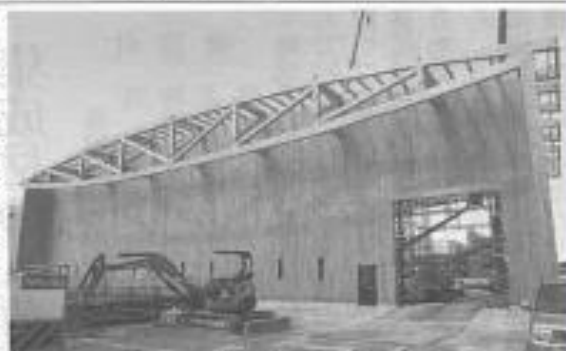
西尾レントオール(大阪市、西尾公志社長)は、大阪南港の咲洲に建設中のR&D国際交流センターの一部にAT&A-CLT工法を採用した木造アリーナ棟の建設を進めている。AT&A(富山県滑川市、青谷敏男社長)のハイブリッドトラスなどの技術を活用した38・22メートルの大スパンを6メートル以下の定尺材の組み合わせで実現する。

西尾レントオールは、建設機械レンタルの大手で、次代のレンタル市場に向けた仕組みづくりなどを研究・開発するために咲洲の

土庫2万8719・56平方メートルを2019年に取得。大阪・関西万博開催やIR施設の誘致などに向けて開発が進む工

リアで研究開発成果を内外に向けて発信し、約150億円をかけて研修・会議・宿泊などの機能を備えた施設の開発を進めている。その敷地の一角に延べ床面積1356・43平方メートルの木造準耐火構造によるアリーナ棟を建設している。建物はグループ会社のAT&Aが開発してきたAT&A-CLT工法を採用し、柱はR

ウッド構造用集成材(E1051F300、銘建工業)120×360の柱を2メートルの間隔で、120×2260の梁を約10



大阪・咲洲で木造アリーナ建設

ウッド構造用集成材(E1051F300、銘建工業)120×360の柱を2メートルの間隔で、120×2260の梁を約10

38メートルを飛ばすトラス材を6メートル以下の定尺材を組み合わせたレンス型のハイブリッドトラスを採用。架台を設け

て、地組して100センチのクレイン、2基で吊り上げる。架台を設けて地組することで精度が高いトラスを組み立てることができるといふ。トラス2枚りをユニットに組み立てて吊り上げた。1ユニット組み立てに約4日掛かった。

西尾レントオールは、「大阪ベイエリアの発展への寄与、災害時などの避難施設として受け入れなども地域協議会の推薦を受けて進めている。万博での木造施設の採用に向けての木造建築・研究、展示の場にしていきたい」と話している。

銘建工業)を落とし込み、さらに柱を立てるという順で施工している。CLTは144・87立方メートル、集成材は315・92立方メートルを使用

準防火地域のため内装制限を回避するため、構造躯体は45分準耐火構造の燃えしろ設計を採用、躯体は準不燃塗料ノットバーンを塗布、タイバーは耐火被覆で対応した。加工はスカイ、杉材の一部は協働の森づく

木造アリーナ棟は11月中旬に竣工を予定している。

の杉CLT(S60A1314、銘建工業)を落とし込み、さらに柱を立てるという順で施工している。CLTは144・87立方メートル、集成材は315・92立方メートルを使用

準防火地域のため内装制限を回避するため、構造躯体は45分準耐火構造の燃えしろ設計を採用、躯体は準不燃塗料ノットバーンを塗布、タイバーは耐火被覆で対応した。加工はスカイ、杉材の一部は協働の森づく

木造アリーナ棟は11月中旬に竣工を予定している。